

千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム

私たちの柏の歴史

— 牧から街へ —

History of *Kashiwa*



全体の目次

前書き	p. 1
序章 現代—柏の葉地区の歩み—	p. 2
第1章 原始古代	p. 12
I 柏の遺跡	p. 13
第2章 中世	p. 33
I 古代から戦国時代の柏市域	p. 35
II 柏市の製鉄遺跡	p. 50
第3章 近世	p. 57
I 江戸時代の柏と小金牧	p. 59
II 柏の水運—手賀沼と利根川の開拓と物流—	p. 74
第4章 近代	p. 85
I 小金牧の開墾—十余二地区を中心として—	p. 86
第5章 柏市の農業	p. 93
I 昭和から平成までの変遷	p. 94
II 柏市の農業 トピックス	p. 105
第6章 (小金牧) 十余二開墾物語	p. 116
I 小金牧の開墾—入植時の苦労話—	p. 117
II 十余二の土壌と栽培作物に関する話	p. 118
III サツマイモ・農業に関する話	p. 119
IV 柏飛行場の開設に関する話	p. 120
V 戦後の農地改革・金属工業団地に関する話	p. 120
柏市とその周辺の歴史年表	p. 122
制作メンバー一覧	p. 126

はじめに

この書籍の制作は、2017年の千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム A コース『柏の歴史、文化、産業』の開講がきっかけになっています。柏市に長年居住している人でも、柏地域の歴史や文化、そして経済についてよく知っているわけではありません。そこで、柏市のことを勉強するというプログラムが企画されました。

このプログラムを通して柏市の歴史に興味を持った市民が集まり、大学と一緒に、地域の歴史について勉強したり、調べたりして、この書籍を完成させました。2018年1月20日に第1回のミーティングが開催され、2020年2月22日まで20回以上のミーティングを重ねて作りあげました。

地球上のどこの地域にも、地域ごとに先人たちの歴史があります。その歴史が幾重にも積み重なり、私たちが生活している現代に繋がっています。この書籍は千葉大学柏の葉キャンパスが位置する十余二地域を中心にして、まとめてあります。この書籍を手にとった方がこの地域の歴史を知ること、この地域への愛着を少しでも持っていただけたら幸いです。

なお、2017年の千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラムは柏市教育委員会文化課と経済産業部に協力していただきました。そして、この書籍の作成には、プロジェクトの立ち上げ当初から柏市教育委員会文化課に多大なるご協力いただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

2020年9月1日

千葉大学環境健康フィールド科学センター
野田勝二

第1章 原始古代

目次

I	柏の遺跡	
1.	旧石器時代	p. 13
(1)	旧石器時代の概要	p. 13
(2)	常磐道建設時の柏地区発掘旧石器時代遺跡	p. 17
	① 中山新田 I 遺跡 ② 聖人塚遺跡 ③ 元割遺跡	
(3)	T×周辺（柏北部）の遺跡	p. 21
	① 溜井台遺跡 ② 原山遺跡 ③ 農協前遺跡 ④ 大割遺跡	
	⑤ 大松遺跡 ⑥ 富士見遺跡 ⑦ 駒形遺跡 ⑧ 原畑遺跡	
(4)	柏のその他の遺跡	p. 22
	① 鴻ノ巣遺跡 ② 光ヶ丘遺跡 ③ 天神向原遺跡	
	④ 片山古墳群 ⑤ 石揚遺跡 ⑥ 大六天遺跡 ⑦ 鍵作古墳	
2.	縄文時代	p. 23
(1)	縄文時代の概要	p. 25
(2)	縄文時代の遺跡	p. 25
	① 花前 I 遺跡 ② 中山新田 I 遺跡 ③ 中山新田 II 遺跡	
	④ 聖人塚遺跡 ⑤ 水砂遺跡 ⑥ 小山台遺跡	
3.	常磐道以外の柏の遺跡	p. 30
	⑧ 石揚遺跡 ⑨ 山神宮裏遺跡	
	⑩ 小青田駒形・大松・富士見・原畑遺跡 ⑪ 湖南台遺跡群	
	⑫ 明坊池貝塚 ⑬ 鴻ノ巣遺跡 ⑭ 山ノ田台遺跡	
	⑯ 金山宮後原遺跡 ⑰ 雷神遺跡 ⑱ 天神向原遺跡 ⑲ 原遺跡	
	⑳ 布瀬貝塚 ㉑ 追花遺跡 ㉒ 田中小遺跡 ㉓ 埋田遺跡	
	㉔ 宮ノ内遺跡 ㉕ 中島込第 2 遺跡 ㉖ 中島遺跡 ㉗ 大井貝塚	
	㉘ 岩井貝塚	
4.	調査継続中の注目される遺跡	p. 32
	① 大久保遺跡・大室小山台遺跡 ② 矢船遺跡 ③ 高砂遺跡	

I 柏の遺跡

1. 旧石器時代

表1 古代の遺跡（遺跡年表）

年代	時代	時期	掲載した主な遺跡	主な出来事
約 35,000 年前	旧石器時代		常磐道・柏地区の遺跡、鴻ノ巣遺跡、光ヶ丘遺跡、中馬場遺跡、TX・柏地区の遺跡、石揚遺跡、片山古墳群	柏にヒトが住み始める
約 13,000 年前	縄文時代	草創期	元割遺跡、中山新田遺跡	縄文土器が作り始められる
		早期	駒形遺跡、富士見遺跡	貝塚の形成が始まる ムラの誕生
		前期	雷神遺跡、石揚遺跡	温暖化がピークとなり海水面が最も高くなる
			大松遺跡、石揚遺跡	柏に小規模な貝塚が増加する
		中期	花前遺跡、鴻ノ巣遺跡	大規模な貝塚・ムラが出現する
		後期	大松遺跡、追花遺跡、 聖人塚遺跡、大室小山台遺跡、 布瀬貝塚	大規模な貝塚・ムラが発達する
約 2,600 年前	弥生時代	岩井貝塚、大井貝塚 中島遺跡	遺跡数が減少する	
		前期	稲作が日本列島に伝わる	
		後期	壺棺再葬墓の盛行 方形周溝墓の出現	
西暦 200 年ごろ	古墳時代	後期	笹原遺跡、中馬場遺跡 狸穴遺跡	倭国国王が金印を授かる（57年）
		出現期 前期	一番割遺跡	卑弥呼が魏に朝貢する（239年）
			戸張城山遺跡 幸田原遺跡、北ノ作1号・ 2号墳 呼塚遺跡、浅間古墳	定型化した大型前方後円墳が各地に造られ、 ヤマト政権の勢力が広がる
		中期	弁天古墳	大仙陵古墳（現仁徳天皇陵）が造られる
後期 ～終末期	花野井大塚古墳	「辛亥」銘鉄剣（稲荷山鉄剣）が造られる（471年）		
	原1号墳、 箕輪古墳群 船戸古墳群 若林I製鉄遺跡	仏教の伝来（538年） 飛鳥寺の造営（588年）		
710年 （和銅3年）	奈良時代		大井東山遺跡、中山新田遺跡、 大井東部地区遺跡群	乙巳の変（645年） 平城京に都を遷す（710年）
794年 （延暦13年）	平安時代		宿ノ後遺跡、花前遺跡、 天神台遺跡、根戸高野台遺跡、 手賀廃寺、中島込第2遺跡	平安京に都を遷す（794年）

(1) 旧石器時代の概要

常磐道の建設にあたり柏地区にある11遺跡の発掘調査が行われました。これまでこの地域の歴史といえば野馬土手と牧の存在くらいしか知られていなかったのですが、これらの遺跡すべてから旧石器時代の石器が見つかっただけでなく、7,000点に及ぶ埋蔵文化財が出てきたことにより、旧石器時代から幕末に

至る約2万年間の生活が明らかになってきました。

日本の最古の人類の痕跡は、約35,000年前～13,000年前のもので、柏周辺に人々が住み始めたのもほぼこの頃です。この時代を旧石器時代といい、石を巧みに利用した様々な石器を使い、狩りや採集をしながら生活していました。

この頃は、氷河期の最寒期で、降水量は少なく、関東地方の冬にはほとんど雪が降りませんでした。年平均気温は現在よりも7～8℃低く、現在の札幌(8.2℃)や函館(8.5℃)とほぼ同じ気温だったといえます。

寒冷な氷期を生き抜いた旧石器時代人は針葉樹林や落葉樹林のなかで、石器で狩猟具を作り獲物を狩り、木の実を採取し、食料として移動生活を送っていました。氷期の動物群としてはナウマンゾウ、オオツノジカが主な狩猟対象でしたが気候が温暖化するにつれ滅亡したため、替わってニホンシカ、イノシシ、ノウサギ等の小形動物を狩っていました。住居跡が発見されないことから石器は季節によって移動する動物の群れを追う旧石器人が残したものと推測されます。

旧石器を包含する関東ローム層は、当時盛んであった火山活動によって運ばれた火山灰をもとに生成されています。古いものから多摩ローム層、下末吉ローム層、武蔵野ローム層、立川ローム層という序列で、千葉県内で旧石器が発見されているのは最も新しい立川ローム層(35,000年前から12,000年前)です。立川ローム層は主に古富士火山の火山灰で構成され、その厚さは地表下約2mです。

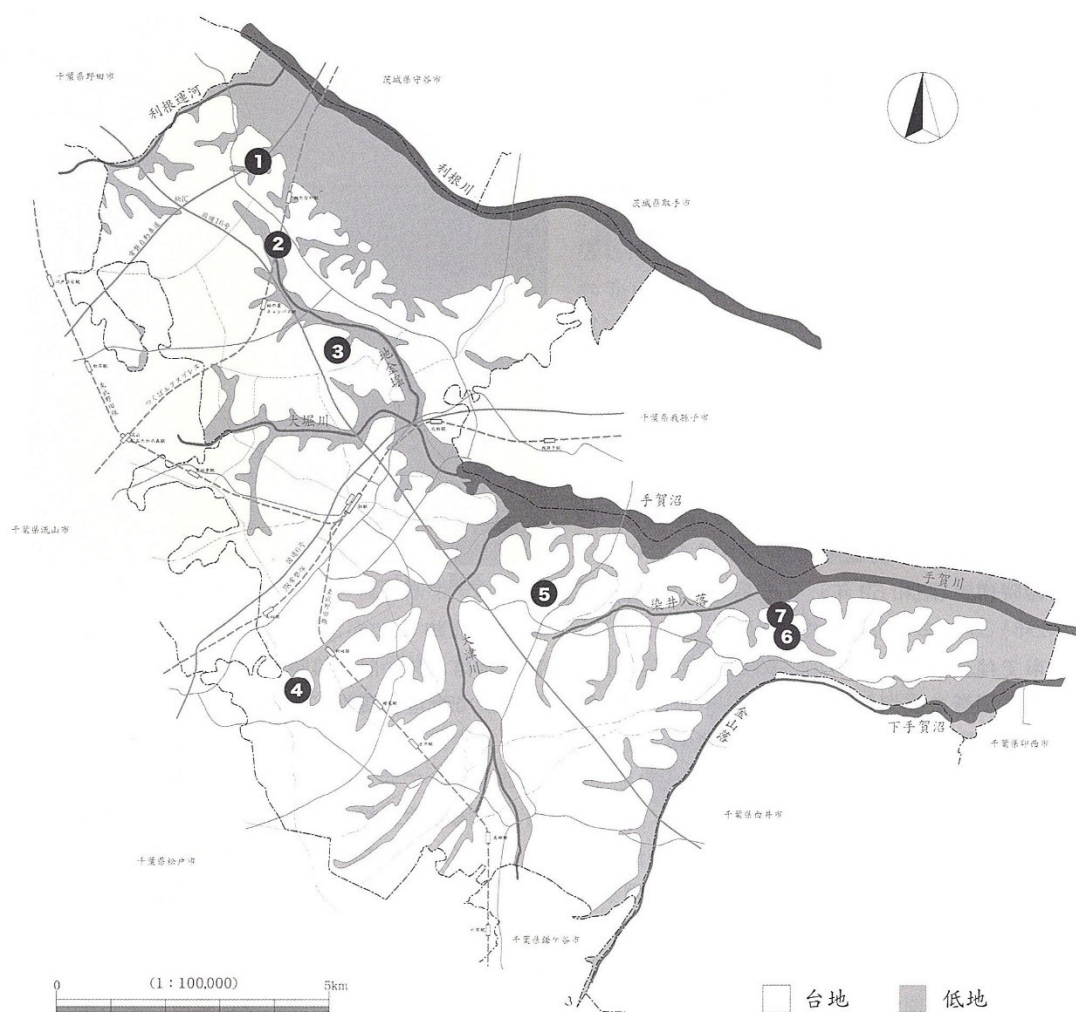
下総台地の立川ローム層は、大きく8枚(ⅢからⅩ層)に分層され、その間に浅間山起源の立川ローム上部ガラス質火山灰(UG)、鹿児島県始良カルデラ^{あいら}から飛来した始良TN火山灰(AT)などの数枚の鍵層が挟まれています。それぞれの土層の年代は測定されており石器の年代は発見された土層から判断できます。

現在市内には68か所の遺跡が確認され、この中には石器がまとまって出土している場所もあり、これをブロック(遺物集中地点)と呼んでいます。この時代には様々な石器が考案され、石材は様々な地域から運ばれました。柏市内でも三大石材^{注1}と呼ばれるもののうち、硬質頁岩や黒曜石^{けつがん}が使用されています。石材の各産地はかなり遠隔地であり、直接持ち込まれることはなかったと思わ

れ、地域間の交易などを介して、間接的にもたらされたと思われます。

注1：三大石材とは

- ①硬質頁岩：堆積岩の一種で粘土が固まってできたもの。薄くて板状で柔らかい
- ②黒曜石（天然硝子）：全国60か所から取れる。神津島、信州産他
- ③サヌカイト（讃岐岩）：近畿から九州まで緻密な古銅輝石。カンカン石（たたくと良い音がする）とも呼ばれる



旧石器時代遺跡分布図

番号	遺跡名
①	常磐道・柏地区の遺跡
②	TX・柏地区の遺跡
③	鴻ノ巣遺跡
④	光ヶ丘遺跡
⑤	天神向原遺跡
⑥	片山古墳群
⑦	石揚遺跡

図1 旧石器時代の遺跡（「柏市史（原始古代中世考古資料）」）

(2) 常磐道建設時の柏地区発掘旧石器時代遺跡

ここで注目されるのは常磐自動車道が建設される時発掘された遺跡です。

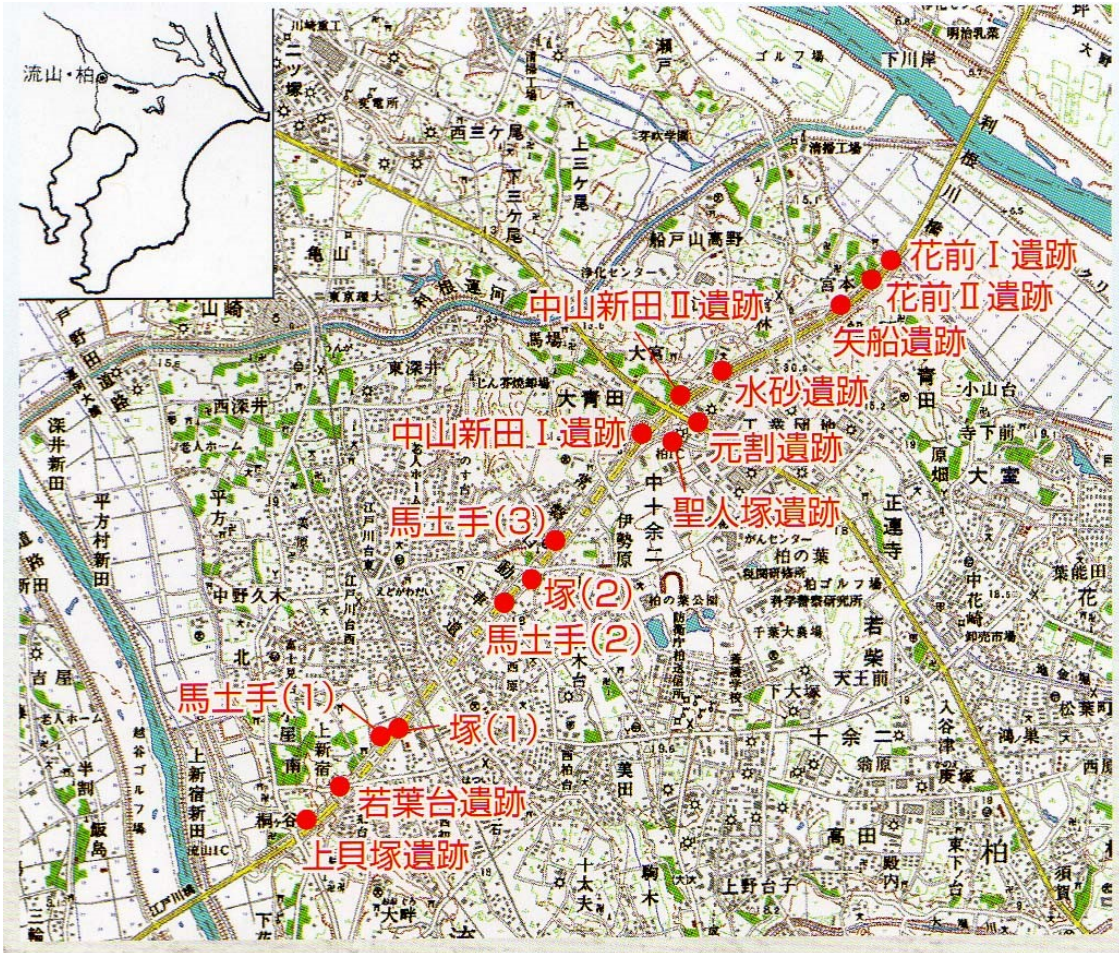


図2 常磐自動車道の遺跡（「悠久の歴史を旅して」）

中山新田 I 遺跡、^{しょうにんづか} 聖人塚遺跡、^{もとわり} 元割遺跡の3か所で、この地域の遺跡の7割ほどの遺跡が見つかっています。これらの遺跡からの出土物を見ると石器石材の産地が広範囲にわたっており、各地からもたらされたものと思われます。栃木南部から下総西部に連なる台地（15m～20m）は、現在では利根川や利根運河で寸断されていますが、当時は栃木方面と地続きであったため、物資の交流があったものと推測されます。

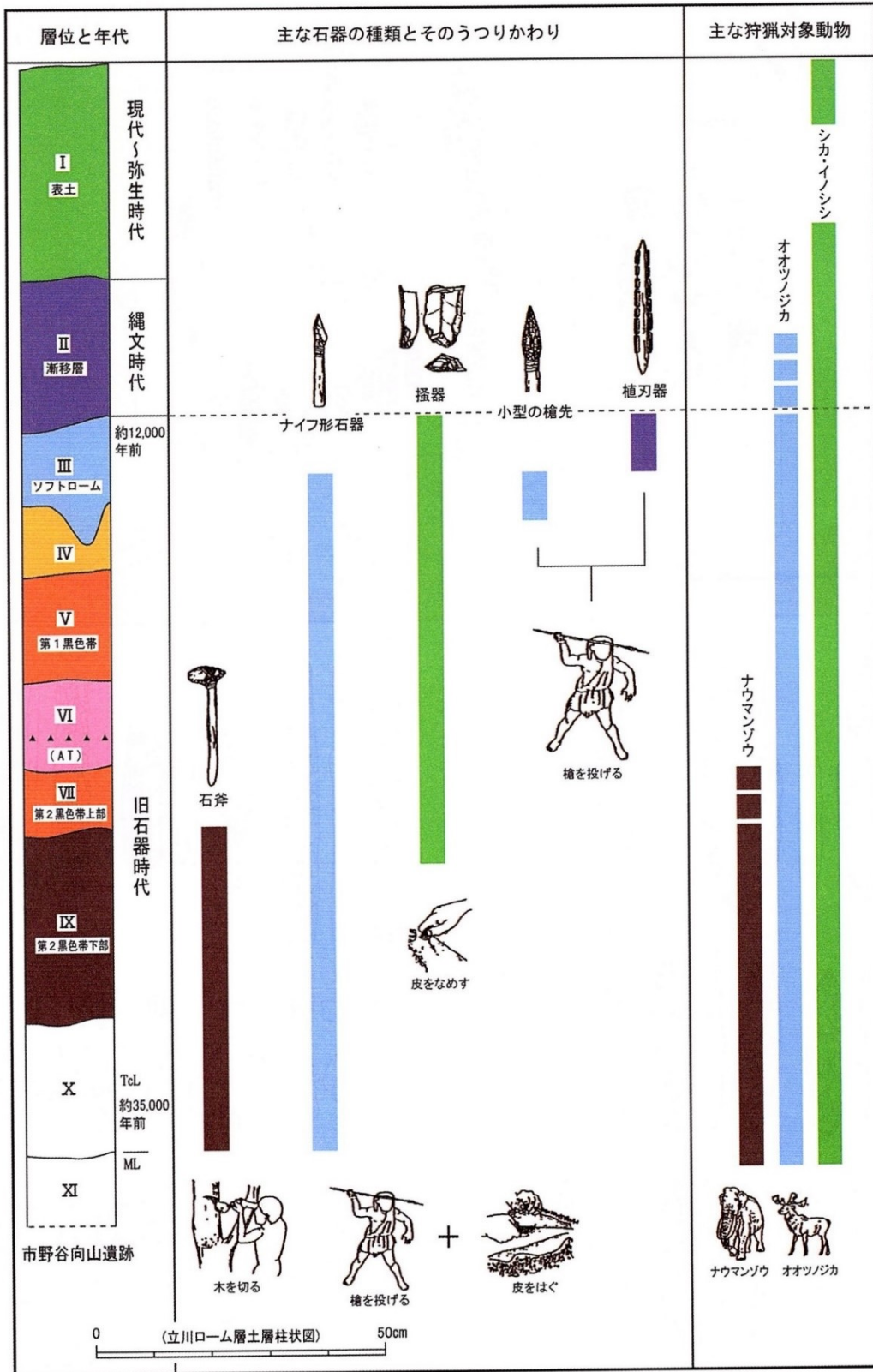


図3 常磐道の遺跡から発掘の石器の移り変わり（橋本 2015 を一部改変）
 （「悠久の歴史を旅して」）

① 中山新田 I 遺跡

図3のⅢ層から黒曜石製の小型石槍が散見するものの、主体はⅩ層（約30,000年前）で、7か所の石器集中地点に分けられます。

中央部では4か所の石器集中地点（ユニット）が発見され、この時期の特徴である局部磨製石斧が出土しています。一方、最南端部には環状ブロックと呼ばれるユニットが位置しています。

利根運河に向かう大青田支谷に北面しており東側には小支谷を隔てて聖人塚遺跡があります。9つのユニットからなり立川ローム層Ⅹ層からナイフ形石器、台形様石器を基調として局部磨製石斧や削器等計2,156点もの多様な石器群が出土しており、千葉県内でも有数の大遺跡です。

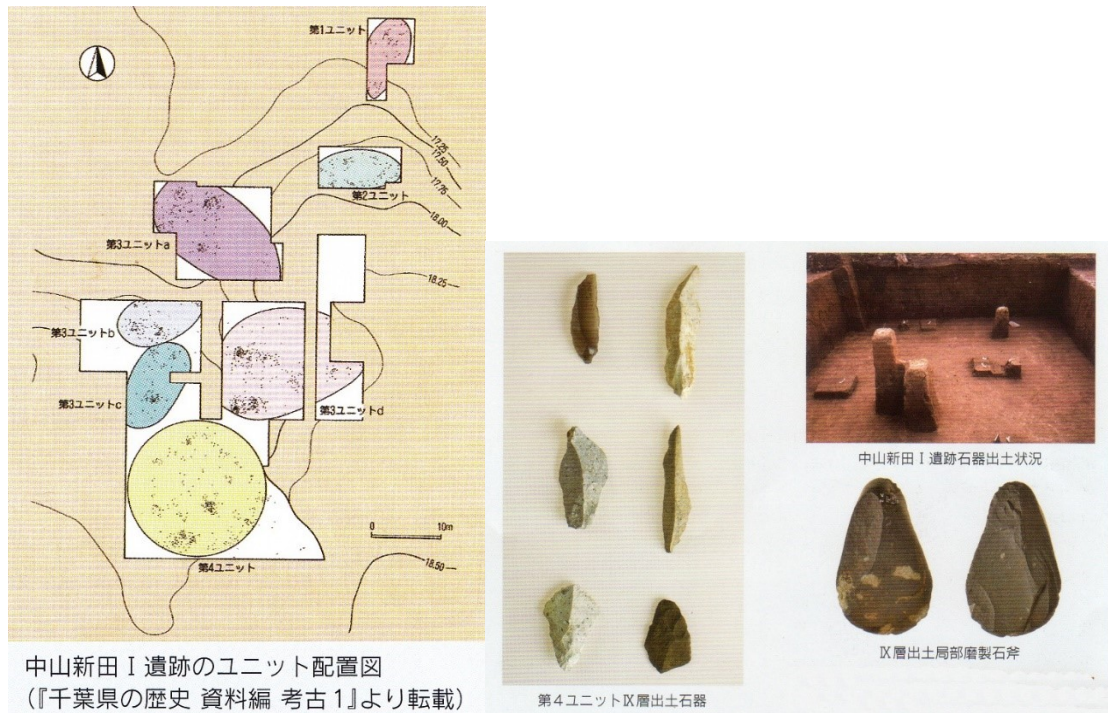


図4 ユニットの配置図と出土状況（「悠久の歴史を旅して」）

② 聖人塚遺跡

立川ローム層のほぼ全層から石器が出土しており、出土層位を基準にした5つの文化層と、21か所もの石器集中ブロックに区別されることから、25,000年以上もの長期間にわたり、同一場所で人々の営みが続いていたと推測されます。

総数 1,324 点もの石器のうち、約 900 点が石器製作の際に産出された剥片や削片であることから、石器製作遺跡であると考えられます。



図5 聖人塚遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

③ 元割遺跡

Ⅶ層（第2 黒色帯上部）やⅣ・Ⅴ層（ハードローム層上部）で石器群が見つっていますが、特に後者では 745 点もの石器類が出土し、ナイフ形石器や削器などこの時期に一般的な器種で構成されています。

一方、本遺跡で最も注目される資料が、石槍を主体とした石器群です。出土した層位から、発掘調査報告書や「千葉県歴史」などでは縄文時代草創期の資料として扱われていますが、この時期の土器が 1 点もなかったことや、他遺跡の例などから、旧石器時代最終末の資料ではないかと推測されます。

2 か所の石器集中地点から、石槍 31 点、削器 6 点のほか、剥片類 23 点が出土しています。石槍の石材は、黒色の珪化岩、チャート（珪質の堆積岩の一種・きめ細かで固い）、ガラス質の黒色安山岩の 3 種類が使われています。

集中して出土した石槍は昭和 31（1956）年に調査された新潟県本ノ木遺跡の成果から本ノ木型」と呼ばれています。



図6 元割遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

(3) T X 周辺（柏北部）の遺跡

① 溜井台遺跡^{ためいだい}

地金堀と大堀川に挟まれた標高 18m の平坦な台地上に 15 か所のブロックと 4 か所の礫群検出。ナイフ形石器が主体。958 点の石器出土（23,000～18,000 年前の石器群）

② 原山遺跡

地金堀上流右岸に 52 か所のブロック検出。2,258 点の石器群と礫出土。環状ユニット、黒曜石、安山岩、チャート、珪質頁岩等。5 枚の文化層が検出され、第Ⅱ文化層で環状ユニットが認められた

③ 農協前遺跡

手賀沼に注ぐ地金堀上流の左岸、標高 20m の平坦な台地上 18 か所のブロックから 1,217 点の石器群と礫出土。Ⅳ層の環状ユニットでは、10 か所に及ぶ火所が想定されている

④ 大割遺跡

地金堀の右岸、標高 20m の台地。50 か所のブロック。2,927 点出土。ナイフ石器と角錐状石器。23,000～18,000 年前の石器群が中心となっていて、石材は黒曜石が中心で、高原山が主体だが、関東周辺の産地が出そろっている

⑤ 大松遺跡

支谷に向かい突出した半島状の地形、標高 18m。21 か所のブロック。2,487 点の石器群出土。ナイフ形石器と石槍。Ⅳ層上部を主体として、環状ユニットを構成している

⑥ 富士見遺跡

標高 10～17m。18 か所のブロック。2,002 点の石器群出土。ナイフ形石器、局部磨製石斧。大別、4 枚の文化層に分かれている

⑦ 駒形遺跡

富士見遺跡とともに支谷に向かい突出した半島状の地形、標高 15～17m。6 か所のブロック。363 点石器群出土

⑧ 原畑遺跡

利根川低地からのびる支谷の最奥部。北側が富士見、東側が小山台、西側が矢船Ⅱ遺跡と隣接。標高 18～19m。27 か所のブロック。1,475 点の石器群出土。

ナイフ石器（石刃素材）、石斧など。石材は概ね北関東型の黒色安山岩、黒色頁岩、黒曜石（箱根信州産）、緑色凝灰岩（石斧）、ガラス質黒色安山岩が主体

(4) 柏のその他の遺跡

① 鴻ノ巣遺跡

（昭和48（1973）年に調査された古い調査事例。23,000～18,000年前の石器群が中心）

北柏駅北西2km。標高17～18m。旧石器時代、縄文、弥生、平安時代の遺跡、遺物が発見

② 光ヶ丘遺跡

柏市内でも出土例の少ない有樋尖頭器の出土。増尾駅西方1.5kmの台地上、標高24mに位置。5か所のブロック。151点の石器。1か所の礫群。177点の遺物が発見

③ てんじんむかいはらいせき 天神向原遺跡

立川ローム層Ⅶ層段階の一般的な様相をよく反映した遺構で大規模なブロックを形成する。手賀沼に向かう支谷最奥部、標高24mの台地上。北に大井東山遺跡、船戸古墳群、船戸貝塚（縄文時代の主淡貝塚）、西に大井大畑遺跡（奈良平安時代）、追花遺跡、追花遺跡Ⅱ遺跡、浅間山遺跡（古墳時代）が所在している。中でも大井東山遺跡からは、時代が下るが三彩釉小壺と銅鈴は優品として特筆される

④ 片山古墳群

手賀沼南岸での数少ない調査例の一つで、18,000～16,000年前の資料が一括して検出される事例は乏しく、希少価値が高い遺跡である。手賀沼南岸の平坦な台地上、湖岸から0.7kmの距離。標高は22m。旧石器時代から奈良、平安時代の遺跡が密集している。北作1、2号墳、西に石揚遺跡がある。3か所のブロックから155点の石器出土

⑤ 石揚遺跡

手賀沼を北に望む標高20～22mの平坦な台地上。湖岸から300mの距離。36か所のブロック。2,213点の石器出土。2点の有舌尖頭器、5点の石槍出土。旧石器時代前半の資料が中心。特にⅦ層段階に良好な接合資料^{注2}があり、当時の石

器製造技術を知ることができる

⑥ 大六天遺跡

槍先形尖頭器、石槍（長さ 18.8cm）、本ノ木型尖頭器（ほぼ完全な形で残さ
れていて、本ノ木型の尖頭器としては国内最大級の長さを誇る）

⑦ 鍵作古墳

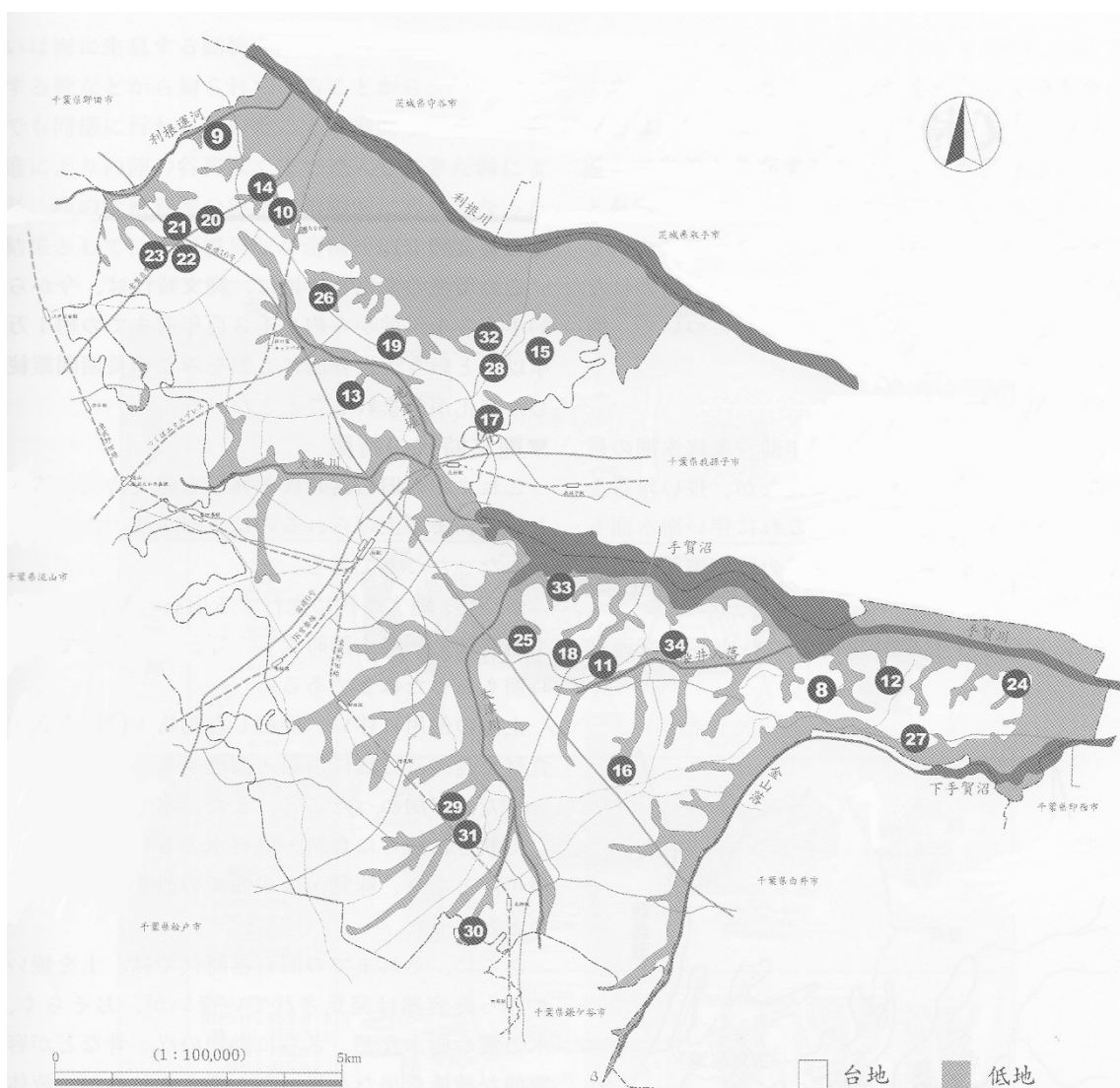
石錐、彫刻刀型石器等採取。

注2：石器や石器を作る際に出た石のかけら同士を、割れ面や折れ面で接合したもの。石器を
作る際の石割りの経過を具体的にたどる資料として、重要な意味をもつ。また、遺跡での出土
の位置関係から石器を作った人や使った人の行動についての手がかりをもたらすこともある

2. 縄文時代



図7 縄文海進時の海岸線（「柏市史（原始古代中世 考古資料）」）



第1図 本書所収遺跡位置図

番号	遺跡名	番号	遺跡名	頁	番号	遺跡名
8	石揚遺跡	17	雷神遺跡		25	追花遺跡
9	山神宮裏遺跡	18	天神向原遺跡		26	田中小遺跡
10	小青田駒形・大松・ 富士見・原畑遺跡	19	原遺跡		27	埋田遺跡
11	湖南台遺跡群	20	水砂遺跡		28	宮ノ内遺跡
12	明坊池貝塚	21	中山新田遺跡 (旧：中山新田II遺跡)		29	林台遺跡
13	鴻ノ巣遺跡	22	聖人塚遺跡		30	中島込第2遺跡
14	花前遺跡	23	中山新田遺跡 (旧：中山新田I遺跡)		31	中島遺跡
15	山ノ台遺跡	24	布瀬貝塚		32	布施城山遺跡
16	金山宮後原遺跡				33	大井貝塚
					34	岩井貝塚

図8 縄文時代の遺跡の位置図（「柏市史（原始古代中世 考古資料）」）

(1) 縄文時代の概要

約 20,000 年前に最終氷期の最も寒冷な時期のピークを迎えましたが、徐々に気温が温暖化し、海水面も上昇し、谷の陸地奥まで海岸線が侵入しました（貝塚の形成）。土器が使用され始めると、動物や植物の食材の加熱調理や保存が行われるようになります。

縄文時代には人々は一か所にムラを作って定住し、ムラを中心に食料を始め生活に必要な道具類等を調達しました。一方、明かに領域内にはない遠い地域にしか存在しない材料で作られた道具もムラの跡から発見されています。

縄文時代を代表する道具である縄文土器は、制作者が自由に創作したのではなく、制作者が所属する集団によって形や文様がある程度決まっていたようです。その証拠に、よく似た土器が異なる遺跡から発見されています。このような類似したモノのまとまりを「型式」と呼び、時代や地域をとらえる単位とします。

全国の縄文時代の貝塚のうち約 2 割（750 か所）は千葉県にあり、全国最多で、江戸川などの川近くや印旛沼に面した台地の端に多くあります。中でも柏市の岩井貝塚は有名な遺跡です。

(2) 縄文時代の遺跡

① 花前 I 遺跡

縄文時代前期前半の竪穴住居跡が 9 軒調査されています。いずれも隅丸方形の平面形で、8 軒の竪穴住居跡内の覆土中に貝層が堆積していました。特に、103 号竪穴住居跡内には全面に貝層が堆積し、多くの遺物が発見されています。ハマグリの貝刃もこの住居跡から出土しています。関山式の文様様式を引き継いでいないことから、流山市若葉台遺跡よりやや新しい時期と思われる。

黒浜期の竪穴住居跡覆土中に捨てられた貝種から、当時の古鬼怒湾（現在の利根川下流域に広がる）での生業の様子をうかがうことができます。

一方、前期後半の浮島式土器が出土した竪穴住居跡は 2 軒のみで、この時期の 2 軒の竪穴住居跡には貝層が伴っていませんでした。



図9 花前I遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

② 中山新田I遺跡（図8の遺跡③）

縄文時代中期前半の竪穴住居跡は5軒と小規模ですが、いずれも屋内炉がなく、床面中央部に支柱穴が位置するという共通の特徴をもっています。また、5軒中3軒の竪穴住居跡は、床面に同心円状の段が掘り込まれる「有段竪穴」の構造です。

出土した縄文土器は、中期前半の阿玉台式期の古い段階で、中部高地に分布の主体をおく「^{むじなさわ}貉沢式土器」の文様が入った土器も一定量見ることができます。



図10 中山新田I遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

③ 中山新田Ⅱ遺跡（図8の遺跡①）

聖人塚遺跡北側の小さな谷を挟んだ台地上に位置し、谷を望む台地南側縁辺部の比較的狭い範囲に竪穴住居跡群が集中して形成されています。

調査で見つかった竪穴住居跡は、すべて縄文時代中期前半の阿玉台期^{あたまだい}に営まれています。比較的短期間の集落と思われます。

阿玉台式土器は、香取市の阿玉台貝塚を標識遺跡として名付けられた特徴のある土器です。千葉県を含む東関東や北関東に分布の中心があり、土器の胎土中にキラキラ光る雲母片が多く含まれるのもこの土器の大きな特徴です。隆起線文や半分に割った竹管を用いた角押文などの文様が付けられています。



図11 中山新田Ⅱ遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

④ 聖人塚遺跡（図8の遺跡②）

竪穴住居跡等は、北西から流れ込む小河川が分岐する沖積地を望む台地縁辺部に集中しています。早期～晩期の遺物が見つっていますが、主体を占めるのは、縄文時代中期前葉～中葉（約4,500年前～5,500年前）の遺構・遺物です。

出土した土器は、神奈川県相模原市の勝坂遺跡から出土した土器をもとに名付けられた「勝坂式土器」の影響が部分的に認められます。

この遺跡の大きな特徴としては、多量に発見された石器があげられます。黒曜石の大形の石核や剥片が目立ち、その多くは神津島産と考えられています。

しかしながら、石鏃^{せきぞく}（やじり）の大半が黒曜石でありながらも神津島産は少なく信州系やその他の石材が主体となります。このことから、神津島産の黒曜石を使った石鏃は遺跡外に運び出されたものと思われる。



図12 聖人塚遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

⑤ ^{みずすな}水砂遺跡（図8の遺跡⑳）

縄文時代中期の竪穴住居跡は5軒と少なく、阿玉台式期前半3軒と後半の2軒で構成されています。前者は、円形や楕円形の平面形で、屋内炉がなく、床面中央に支柱穴が見られます。後者は、隅丸方形と円形プランで、周溝と屋内炉を伴っています。

人面と思われる資料（図13）は、土器の把手となる可能性が高いのですが、土偶と同じような顔面表現をしています。正面の前頭部を欠いていますが、ゆるやかな三角形の頭部を持つものと思われます。両耳の下位に穴が開けられています。頭頂部内側は深くぼみがあり、竹管工具による刺突が見られます。胎土中に比較的多くの雲母を含み、目の周辺を巡る細い角押文（有節線文）等の特徴から、阿玉台期の前半段階と思われる。

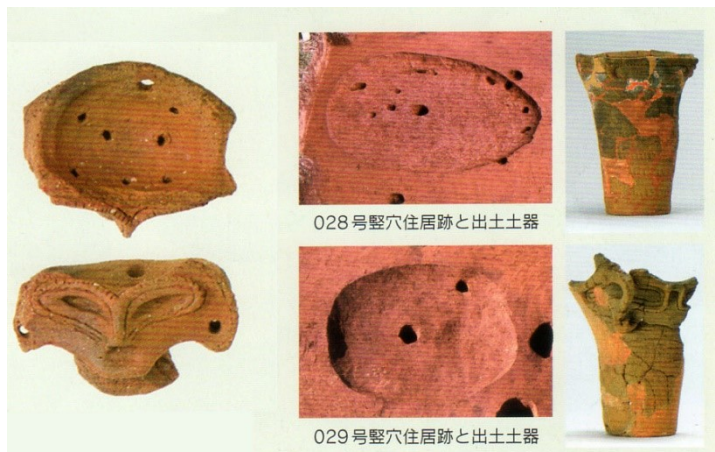


図13 水砂遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

こやまだい
⑥ 小山台遺跡

つくばエクスプレスに関連した柏北部東地区内では、12の遺跡が調査され、縄文時代を中心とした大規模な集落が集中する地域として注目されています。

特に、小山台遺跡では縄文時代中期の環状集落が調査されました。多くの竪穴住居跡や貯蔵穴、土坑などが中央の空白部分を囲むように広がり、環の外側で直径100m以上の大きさを誇っています。この環状集落を中心にリーダーの象徴であるヒスイ製の大珠が7点も発見されました。

阿玉台式土器と同時期に作られた「勝坂式土器」も出土しています。勝坂式土器は東京・神奈川・山梨・長野南部で出土しています。勝坂式はヒト形や動物形の装飾が多く見られ、手を三つ指で表現するという特徴があり、小山台遺跡の土器は三つ指表現の勝坂式を取り入れたものです。



図14 小山台遺跡の出土品（「悠久の歴史を旅して」）

3. 常磐道以外の柏の遺跡

柏市内には、常磐道沿線以外にも多くの縄文遺跡が発掘されています。

表2 縄文時代の遺跡の概要

図8	遺跡名	所在地	遺跡の特徴、出土資料 など
⑧	石揚遺跡	手賀の丘少年の家周辺	前期初頭に属する集落は千葉県、近隣地域でも発掘が極めて少ない狩りを中心とした生活、竪穴住居跡、動物を捕るための落とし穴 石器は石のかけら、黒曜石
⑨	山神宮裏遺跡	市立柏高校構内 標高 15m	早期後葉の炉穴を中心とするが、覆土に貝層を伴った炉穴は希少な事例 早期茅山期の住居 2 軒、前期黒浜期住居 3 軒、土坑貝層を伴った炉穴 9 基
⑩	こあおた 小青田 駒形・ おおまつ 大松・富士見・ 原畑遺跡	柏北部東地区 標高 13~18m	前期を通して集落が形成され、黒浜期には合計 179 軒もの住居が検出 住居跡、貝層、黒浜式土器、装身具、石錐、石匙、磨製石斧等出土
⑪	湖南台遺跡群	沼南高校付近、岩井、箕輪、若白毛 標高 20m	中期前葉から後期初頭を中心とした遺跡、定住集落 炉穴 22 基、土坑 4 基、柵方住居、炉穴内にはマガキ、シオフキ 柄鏡形住居より南海産のオオツタノハを模した土製腕輪は希少な事例
⑫	明坊池貝塚	手賀沼南岸、少年自然の家と石揚遺跡の近く谷の斜面 標高 20m	前期黒浜式土器がまとまって出土
⑬	鴻ノ巣遺跡	松葉町 5 丁目 標高 17~18m	縄文集落の全容を明らかにした全面発掘の先駆 黒浜式土器を伴う竪穴住居 21 軒、貝塚
⑮	山ノ田台遺跡	あけぼの山公園 標高 19m	黒浜式土器、貝層（サルボウ、マガキ、ハマグリ）、集石土坑出土、住居 2 軒
⑯	金山宮後原遺跡	手賀大橋の南 3 km 標高 25~26m	黒浜期の竪穴住居 8 軒、住居内貝層出土
⑰	雷神遺跡	布施新町 4 丁目三井団地 標高 19m	昭和 45 年に調査された、柏市でも古い段階の調査事例 住居跡 4 軒、貝層土器出土

⑮	天神向原遺跡	柏市大井	前期中葉を主体とした集落 竪穴住居 12 軒、土坑 7 基、土器、石製品出土
⑲	原遺跡	柏市花野井吉田家住宅付近、利根川に向かって突き出した舌状台地 標高 18~19m	縄文時代前期後半の霊園 竪穴住居 3 軒、土坑 96 基、土器、石製品（玦状耳飾り、石さじ、琥珀製垂飾品）出土
⑳	布瀬貝塚	印西市との行政界 標高 20m	中期の貝塚で、岩偶など極めて希少な重要資料 ハマグリ、シオフキ、サルボウ出土
㉕	追花遺跡	柏市大井 標高 20m	前期中葉～後葉環状集落 住居 7 軒、深鉢の土器出土
㉖	田中小遺跡	柏市大室柏ビレッジの一画 標高 18m	中期の掘立柱建物跡や柱穴列の確認されたことは、本地域では希少な事例 前期黒浜期の住居 1 軒、土坑出土、中期阿玉台期の住居
㉗	埋田遺跡	柏市手賀 標高 22m	中期の集落 竪穴住居 2 軒、土坑 2 基出土
㉘	宮ノ内遺跡	柏市布施、 標高 20m	中期阿玉台期、加曽利期の竪穴住居 30 軒、土坑 147 基出土
㉚	中島込第 2 遺跡	柏市高南台 3 丁目	後期初頭の小規模な集落 竪穴住居 10 軒、土坑 18 基出土、溝穴 2 条
㉛	中島遺跡	柏市逆井、水源を鎌ヶ谷市に発する大津川本流と支流との台地上に位置 標高 14~15m	低標高の北側緩斜面に形成された後期前半の集落 竪穴住居 4 軒
㉜	大井貝塚	柏市大井、大津川河口右岸 20m	後晩期の集落遺跡、馬蹄形貝塚と推定されている ヤマトシジミ、ハマグリ、ハイガイ、淡水類の貝出土 石鏃、打製石斧、土偶出土
㉝	岩井貝塚	手賀沼南岸、沼南高校に隣接 標高 20m	3 千年前、 ヤマトシジミ、アサリ、ハマグリ、アカガイ、アワビ、クジラ、クロダイ、スズキ、シカ、イノシシ出土

注：番号欄の数字は、図 8 の遺跡名（白抜き数字）

4. 調査継続中の注目される遺跡

柏市の遺跡は現在も調査継続中のものが多くあり、新しい調査資料が順次発表されています。最近は、次の資料も注目されています。

① 大久保遺跡・大室小山台遺跡

トンネル状遺構。大室小山台遺跡では、高さ・幅ともに平均0.8mほどの横穴（トンネル）が曲がりくねって総延長310m以上もつながっている。その所々に0.8～1.0m、深さ1.6mほどの地上までの円筒形縦穴が掘り込まれている。また出入り口と見られるスロープがある（アナグマの巣穴を広げて活用したのか）

② 矢船遺跡

前期後葉の土製・石製の玦状^{注3}耳飾りが15点も集中して出土されている

③ 高砂遺跡

中期初頭の土製土器が出土。房総における縄文中期初頭の状況を知るうえで注目される遺跡である

注3：環状の一部を欠き取ったもの。本来は腰下げの玉の一種

柏市とその周辺の歴史年表

※本年表は「郷土かしわ」の歴史年表をベースとし、末尾欄外に示す引用・参考文献より重要と思われる「できごと」を補足した。

時代区分	西暦	年号	主なできごと
原 始 文 時 代	約4万年前 約3万年前		<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島に最古の明確な石器が出現 ・常磐自動車道柏地区に旧石器時代の遺跡が現れる（聖人塚、中山新田、元割遺跡など） ・環状ブロックの形成（中山新田Ⅰ遺跡） ・長期間の人々の営み（聖人塚遺跡） ・本の木型石槍の生産（元割遺跡）
	約1万5千年前	草創期 早期 前期 中期 後期 晩期	<ul style="list-style-type: none"> ・土器の使用が始まる ・狩猟や採集の生活が続く ・本格的なムラがつくられ始まる（鴻ノ巣、花前遺跡） ・前期前葉の黒浜式期の集落が出現（若葉台遺跡、花前Ⅰ遺跡） ・貝塚を中心に大集落ができる（布施貝塚、林台遺跡） ・中期前葉の阿玉台式期の集落が展開（聖人塚遺跡、中山新田Ⅰ・Ⅱ遺跡、水砂遺跡） ・中期中葉～後葉の環状集落（小山台遺跡） ・中島遺跡、岩井貝塚 ・宮根遺跡
弥 生 時 代	前10世紀後半～前8・7世紀 紀元後 239		<ul style="list-style-type: none"> ・大陸から北九州に稲作が伝わる ・大陸から青銅器、鉄器が伝わる (今のところ柏市内では弥生時代 早・前・中期を示す明確なものは発見されていない) ・邪馬台国の女王卑弥呼が倭国王になる ・笹原、中馬場遺跡（弥生後期）
	538 593 飛鳥時代 607 645 646 701	大化元 大化2 大宝元	<ul style="list-style-type: none"> ・前方後円墳がつくられる（大王が支配する大和政権） ・戸張一番割、戸張城山、石揚遺跡（古墳前期） ・北ノ作1号・2号墳 ・弁天古墳（古墳・中期） ・花野井大塚古墳 ・小規模な集落が出現（花前Ⅱ-1遺跡、矢船遺跡） ・集落規模の拡大（上貝塚遺跡） ・百済から仏教伝わる ・聖徳太子が推古天皇の摂政になる ・柏・我孫子あたりは朝廷の御名代（みなしろ）として直接支配される ・小野妹子を遣隋使として隋に送る ・市内各所に小円墳がたくさんつくられる ・総の国を二分して南部を上総、北部を下総とした ・大化改新の詔が発布される ・大宝律令ができる ・下総国府（市川市国府台）置かれる ・根戸周辺に大集落ができるようになる（中馬場遺跡）
古 墳 時 代	710 721 741 771	和銅3 養老5 天平13 宝亀2	<ul style="list-style-type: none"> ・平城京（奈良）に遷都 ・この頃鉄器生産を伴う集落の出現（花前Ⅰ遺跡、花前Ⅱ-2遺跡） ・養老5年「下総国倉麻（そうま）郡意布郷（おふのさと）」戸籍つくられる（ほとんどの人が「藤原部」姓をもつ） ・国分寺建立の詔 ・下総国分寺建立 ・武蔵国-下総国-常陸国（東海道）の交通が多くなり、駅馬が増強される
	794 823 935 1126 1130 1156 1167	延暦13 弘仁14 承平5 大治元 大治5 保元元 仁安2	<ul style="list-style-type: none"> ・平安京（京都）に遷都 ・この頃本格的な製鉄の展開（花前Ⅱ-2遺跡） ・空海、布施弁財天に紅竜山東海寺を建立（東海寺縁起による） ・平将門反乱をおこす ・相馬御厨成立 ・平常重、布施郷（相馬御厨）を伊勢皇太神宮領に寄進（志子多谷、手下水海の名みえる） ・保元の乱に、千葉介常胤（相馬郡司）、源義朝に従って参加 ・平清盛が太政大臣となる
奈 良 時 代	710 721 741 771	和銅3 養老5 天平13 宝亀2	<ul style="list-style-type: none"> ・平城京（奈良）に遷都 ・この頃鉄器生産を伴う集落の出現（花前Ⅰ遺跡、花前Ⅱ-2遺跡） ・養老5年「下総国倉麻（そうま）郡意布郷（おふのさと）」戸籍つくられる（ほとんどの人が「藤原部」姓をもつ） ・国分寺建立の詔 ・下総国分寺建立 ・武蔵国-下総国-常陸国（東海道）の交通が多くなり、駅馬が増強される
平 安 時 代	794 823 935 1126 1130 1156 1167	延暦13 弘仁14 承平5 大治元 大治5 保元元 仁安2	<ul style="list-style-type: none"> ・平安京（京都）に遷都 ・この頃本格的な製鉄の展開（花前Ⅱ-2遺跡） ・空海、布施弁財天に紅竜山東海寺を建立（東海寺縁起による） ・平将門反乱をおこす ・相馬御厨成立 ・平常重、布施郷（相馬御厨）を伊勢皇太神宮領に寄進（志子多谷、手下水海の名みえる） ・保元の乱に、千葉介常胤（相馬郡司）、源義朝に従って参加 ・平清盛が太政大臣となる

時代区分		西暦	年号	主なできごと	
古 代	平安 時代	1180	治承4	<ul style="list-style-type: none"> 源頼朝伊豆に拳兵 千葉一族協力する 	
		1185	文治元	<ul style="list-style-type: none"> 千葉介常胤本領安堵（相馬御厨の下司職）を得る 守護, 地頭の設置 千葉介常胤「下総一國守護職」に補任 	
中 世	鎌倉 時代	1192	建久3	<ul style="list-style-type: none"> 源頼朝征夷大將軍に任ぜられ, 鎌倉に幕府を開く 	
		1204	元久2	<ul style="list-style-type: none"> 相馬次郎師常（常胤の次男）没 	
		1227	嘉禄3	<ul style="list-style-type: none"> 相馬五郎能胤が娘土用（むすめとよ）に相馬御厨内の手加, 布瀬, 藤心, 野木崎らをゆずる 	
	南北朝 時代	1334	建武元	<ul style="list-style-type: none"> 建武の新政 	
		1338	延元3	<ul style="list-style-type: none"> 足利尊氏, 征夷大將軍となり幕府を開く 	
	室 町 時代	戦国 時代	1462	寛正3	<ul style="list-style-type: none"> 高城胤忠, 根木内城構築
			1467~77	応仁元	<ul style="list-style-type: none"> 応仁の乱
			1478	文明10	<ul style="list-style-type: none"> 太田道灌, 国府台に陣し, 千葉孝胤と境根原で戦う
			1537	天文6	<ul style="list-style-type: none"> 高城胤吉, 小金大谷口城構築
			1538	天文7	<ul style="list-style-type: none"> 北条軍と小弓軍国府台に戦う 北条軍勝利
近 世	安土 桃山	1564	永禄7	<ul style="list-style-type: none"> 国府台後の戦, 里見氏, 北条軍に敗れる 	
		1573	天正元	<ul style="list-style-type: none"> 室町幕府滅ぶ 	
	江 戸 時 代	戦国 時代	1590	天正18	<ul style="list-style-type: none"> 豊臣秀吉の統一 高城氏滅ぶ
			1600	慶長5	<ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原の戦い
			1603	慶長8	<ul style="list-style-type: none"> 徳川家康將軍となり江戸に幕府を開く
			1614	慶長19	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府, 小金三牧と佐倉七牧を管理する
			1616	元和2	<ul style="list-style-type: none"> 幕府七里ヶ渡を定船場とする 本多正重が相馬郡内に1万石を領す
			1641	寛永18	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川開通
			1641~43	寛永18~20	<ul style="list-style-type: none"> 寛永の大飢饉
			1654	承応3	<ul style="list-style-type: none"> 伊奈備前守忠次, 利根川東遷に成功
1663			寛文3	<ul style="list-style-type: none"> 大青田村と船戸村の草場をめぐる争いで双方の名主入牢 	
1671			寛文11	<ul style="list-style-type: none"> 江戸商人（海野屋作兵衛ら17名）による手賀沼干拓始まる 	
1702			元禄15	<ul style="list-style-type: none"> 大室村と高野村草場をめぐる争いで3人死に, 双方の名主入牢 	
1708			宝永5	<ul style="list-style-type: none"> 戸張村と大井村草場をめぐる争い 	
1724			享保9	<ul style="list-style-type: none"> 利根川沿いに流作場生まれる 布施河岸が正式に成立 	
1725			享保10	<ul style="list-style-type: none"> 小金原で將軍吉宗鹿狩, 村々より勢子, 人足差し出す このころより代官, 小宮山奎之進, 牧付新田を開発させはじめる 	
1726			享保11	<ul style="list-style-type: none"> 小金原で將軍吉宗鹿狩 	
1727			享保12	<ul style="list-style-type: none"> 幕府年貢増収をねらって手賀沼干拓を始める 	
1729			享保14	<ul style="list-style-type: none"> 手賀沼開墾により千間堤完成(5年後決壊) 手賀沼干拓竣工 	
1732			享保17	<ul style="list-style-type: none"> 享保の大飢饉 	
1737	元文2	<ul style="list-style-type: none"> 藤ヶ谷に鮮魚街道石橋が作られる 			
1738	元文3	<ul style="list-style-type: none"> 千間堤洪水により決壊 			
1745	延享2	<ul style="list-style-type: none"> 手賀沼再工事竣工 利根川洪水のため千間堤再決壊 			
1748	寛延元	<ul style="list-style-type: none"> 水戸公, 小金原で鹿狩, 帰途, 弁天で参詣 			
1783~87	天明3~7	<ul style="list-style-type: none"> 関東一帯大飢饉(天明の大飢饉) 			
1787	天明7	<ul style="list-style-type: none"> 寛政の改革始まる 			
1790	寛政2	<ul style="list-style-type: none"> 船戸・小青田等16ヵ村・水戸公の鷹場の免除を願い出る 			
1795	寛政7	<ul style="list-style-type: none"> 小金原で將軍家齊鹿狩 			
1849	嘉永2	<ul style="list-style-type: none"> 小金原で將軍家慶鹿狩 			
1853	嘉永6	<ul style="list-style-type: none"> 黒船渡来で世間騒がしくなり水戸街道の往来がはげしくなる（助郷増加） 非常時（黒船渡来）のため, 村々から船戸, 藤心詰足軽勤番差し出す 品川沖へ御台場建築のため根戸村御林から木材を江戸へ送る 			
1855	安政2	<ul style="list-style-type: none"> 下総布川の儒医, 赤松宗旦「利根川図誌」を著す 			
1867	慶応3	<ul style="list-style-type: none"> 大政奉還 			

時代区分	西暦	年号	主なできごと	
近代	1868	明治元	・旧領主本多紀伊守、駿河から安房国長尾藩（現南房総市白浜）へ移封	
	1869	明治2	・葛飾県の支配となる	
	1871	明治4	・小金、佐倉牧開墾会社設立、小金・佐倉牧廃止 ・ 廃藩置県	
	1873	明治6	・葛飾県を廃止、印旛県となる	
	1873	明治6	・下総開墾会社を解散	
	1879	明治12	・豊四季村、十余二村誕生 ・千葉県となる ・第1回県会議員選挙、成島巍一郎（布施）、木村作左衛門（名戸ヶ谷）当選する	
	1888	明治21	・藤ヶ谷に鮮魚街道常夜灯造立	
	1889	明治22	・利根運河の工事始まる ・ 大日本帝国憲法発布 ・ 市町村制施行	
	1890	明治23	・富勢村・土村・田中村・千代田村・手賀村・風早村誕生	
	1894	明治27	・利根運河完成	
	1896	明治29	・ 日清戦争始まる	
	1897	明治30	・常磐線（当時日本鉄道株式会社土浦線）、田端～土浦間開通、柏駅開設	
	1901	明治34	・成田線開通（成田～佐倉間開業）	
	1904	明治37	・成田鉄道（現成田線）我孫子～安食間開通（成田直通は翌年）	
	1911	明治44	・ 日露戦争始まる ・県営軽便鉄道 柏～野田間開通（現東武アーバンパークライン）	
	大正	1914	大正3	・ 第1次世界大戦始まる
		1920	大正9	・陸前浜街道は国道六号となる ・第1回国勢調査実施 柏市域人口24,908人
		1923	大正12	・ 関東大震災 ・北総鉄道株式会社、柏～船橋間開通（現東武アーバンパークライン） ・東葛飾中学校（現東葛飾高校）開校 ・詩人「八木重吉」が東葛飾中学校に赴任 ・柏郵便局に電報、電話事務取扱
		1926	大正15	・千代田村、柏町と改称（9月15日）
昭和		1928	昭和3	・豊四季に柏競馬場ができる
	1938	昭和13	・十余二に陸軍柏飛行場建設始まる	
	1939	昭和14	・ 第2次世界大戦始まる	
	1941	昭和16	・ 太平洋戦争始まる	
	1943	昭和18	・この頃柏町に軍需工場ができる	
	1945	昭和20	・ 広島、長崎に原爆投下、日本無条件降伏	
現代	1947	昭和22	・利根遊水地の築堤始まる	
	1949	昭和24	・常磐線松戸～取手間電化	
	1952	昭和27	・国道6号整備着工（50年完成）	
	1953	昭和28	・南柏駅開設	
	1954	昭和29	・柏町、田中村、小金町、土村が合併「東葛市」となる ・小金町の大部分が松戸へ合併 ・東葛市に富勢村の大部分を編入し柏市誕生（11月15日）	
	1955	昭和30	・手賀村、風早村が合併し沼南村となる ・国勢調査 柏市の人口45,020人、沼南村人口10,911人、合計市域人口55,931人	
	1957	昭和32	・米軍柏通信所（キャンプ・トムリンソン）開設 ・国道6号（小金～青山間）で全線開通（12月）	
	1964	昭和39	・ 第18回オリンピック大会東京で開催 ・沼南村が沼南町となる ・柏市人口10万人突破（11月） ・国勢調査 柏市の人口109,237人、沼南町人口15,262人、合計市域人口124,499人	
	1970	昭和45	・ 日本万国博大阪で開催 ・国道16号（野田～千葉間）全線開通（4月） ・柏市人口15万人突破 ・沼南町人口2万人突破	
	1973	昭和48	・柏駅東口再開発事業完成 東口ダブルデッキができる（10月）	
1975	昭和50	・ 海洋博、沖縄で開催 ・柏市の人口20万人を突破（5月）		

時代区分	西暦	年号	主なできごと
現代	昭和	1979	昭和54 ・ 国勢調査 柏市人口203,065人、沼南町人口22,150人、合計柏市域人口225,215人
		1982	昭和57 ・ 米軍柏通信所（柏の葉）全面返還（8月）
		1985	昭和60 ・ 沼南町人口3万人突破 ・ 柏市の人口25万人を突破 ・ 科学万博，筑波学園都市で開催 ・ 常磐高速道路一部開通（柏～三郷） ・ 国勢調査 柏市人口273,128人、沼南町人口38,027人、合計柏市域人口311,155人
		1987	昭和62 ・ 運輸政策審議会において常磐新線の整備を答申（7月）
		1988	昭和63 ・ 柏市立十余二小学校開校 ・ 沼南町人口4万人突破
		1989	平成元 ・ 柏市の人口30万人を突破（5月） ・ 国勢調査 柏市人口317,750人、沼南町人口45,130人、合計柏市域人口362,880人
	平成	1991	平成3 ・ 税関研修所移転 ・ 柏の葉公園一部開園 ・ 千葉大学園芸学部附属農場設立 ・ 1都3県は宅地・鉄道一体化法に基づく基本計画を策定し、運輸・建設・自治大臣が承認
		1992	平成4 ・ 国立がんセンター東病院開院
		1994	平成6 ・ 常磐新線起工式（秋葉原～新浅草間）（10月）
		1996	平成8 ・ 緑園都市構想策定（3月） ・ さわやかちば県民プラザ開館
		1999	平成11 ・ 科学警察研究所移転 ・ 東京大学の物性研究所・宇宙線研究所が柏の葉キャンパスへ移転
		2001	平成13 ・ 常磐新線新名称を「つくばエクスプレス」に決定（2月） ・ 柏ゴルフ倶楽部閉鎖（9月）
		2003	平成15 ・ 千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育センター設立
		2004	平成16 ・ 柏市制50周年記念式典を挙行 ・ つくばエクスプレス開業「柏の葉キャンパス駅」「柏たなか駅」誕生（8月）
		2007	平成17 ・ 国勢調査 柏市人口380,963人
		2008	平成20 ・ 県立柏の葉高校開校 ・ 中核市となる(4/1)
		2011	平成23 ・ 柏の葉国際キャンパスタウン構想策定（3月） ・ 柏の葉キャンパスを中心とし、内閣府より「総合特区」及び「環境未来都市」の対象地域として指定（12月）
		2012	平成24 ・ 柏の葉小学校開校（4月）
2014	平成26 ・ 柏市制60周年		
2018	平成30 ・ 柏市立柏の葉中学校開校（4月）		

（引用文献）

- 柏市教育委員会. 2018. 郷土かしわ地理・歴史・公民編 平成30年度版. P99-114
 柏市市史編さん委員会. 2007. 歴史ガイドかしわ. P238-241. 柏市教育委員会
 柏市教育委員会. 2014. 柏市郷土資料室揭示 柏市略年表
 （公財）千葉県教育振興財団. 2017. 常磐道の遺跡展図録
 柏市議会事務局. 2018. 市政概要 平成30年版. P275-277

（参考文献）

- 柏市史編さん委員会. 1980. 柏市史年表. 柏市役所
 柏市役所（最終更新日2018.1.11）柏市の歴史 <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020300/p000077.html> 2018.8.27参照
 柏市役所（最終更新日2017.3.8）旧沼南町の概要 <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020100/p000138.html> 2018.8.27参照
 柏市役所（最終更新日2018.7.2）柏市統計書 平成29年版 柏市の沿革 <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020800/p008433.html> 2018.8.27参照
 柏市役所（最終更新日2018.5.23）柏市都市計画マスタープラン平成30年4月 p7 都市の変遷 www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/140300/p045777.htm 2018.8.27参照

「私たちの柏の歴史～牧から街へ～」制作プロジェクトチームメンバー

統括・代表	野田勝二（千葉大学環境健康フィールド科学センター） 大鷹秀生 笠羽英男 河合都志子 今野尚子 齋藤優子 下重野乃香 常盤 猛 中山千花 浜口勝美 校條邦夫 山口政子
制作協力	高野博夫（柏市生涯学習部文化課）
表紙・裏表紙デザイン	大野将司
印刷協力	柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）

発行者：千葉大学柏の葉カレッジ・リンクプログラム
野田勝二
発行日：2021年6月30日
千葉大学環境健康フィールド科学センター
〒277-0882
千葉県柏市柏の葉 6-2-1



昭和初期までの柏の葉地域 (UDCK)

私たちの柏の歴史

— 牧から街へ —

History of *Kashiwa*

千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム